

第3章

前計画の成果と課題

1 前計画における目標値の成果と課題



1 前計画における目標値の成果と課題

前計画では、5つの数値目標を設定し、計画期間中は4つの取組みの方向別に様々な事業に取り組みました。前計画の数値目標の達成状況を評価し、本計画に成果と課題を反映します。

達成率の計算方法 最終評価値／目標値×100%
評価基準 A：目標達成 B：8割達成 C：6割達成 D：6割以下

食事を楽しくおいしく食べる

指標	目標値	策定時	最終評価値	達成率	評価
毎日3食食べる人の割合	90%	81.9%	84.8%	94.2%	B
食事を満足している人の割合	80%	71.1%	73.1%	91.4%	B

《成果と課題》

「毎日3食食べる」と答えた人の割合は84.8%と、策定時より改善されているものの、目標値は達成できませんでした。

子供の保護者において「毎日3食食べる」と答えた人の割合は、子供の年齢が上がるにつれて、保護者の欠食が増える傾向が見られました。「平成22年度児童生徒の食事状況等調査報告書」においても、保護者の朝食欠食は3年前と比較すると増加の傾向（「ほとんど食べない」は4.0 → 5.3%と増加、「必ず毎日朝食を食べる」87.5 → 85.7%と減少）が示されています。

健全な食生活は、成長期にある子どもたちにとって健康な心身を育むために欠かせないものであり、子どもの頃に身についた食習慣を大人になって改めることは困難です。そのため、保護者の食習慣や生活時間の改善等は、子どもの健全な食生活の形成に結びつくことが指摘されており、今後も引き続き、重要課題として取り組む必要があると考えられます。

また、「三食とも満足している人の割合」においても、回答した人の割合は73.1%と、策定時より数値は上がったものの、目標値には至りませんでした。

食事への満足度は、食事の内容（豊富な食材、美味しさ、嗜好等）のみならず、空腹感、食卓の雰囲気、共食する仲間等の環境要因によっても左右されます。前回の結果と比較すると、三食に対する満足度は高まっていましたが、

「一人で食事する」人の総数割合は、朝食で 25.2%、夕食で 7.7%を示し、全国平均（朝:19.2%、夕食:4.2%）、神奈川県（朝:22.8 %、夕食:6.4%）と比較して高い結果となりました。

家庭における「共食」には、①規則正しい時間に食べる ②栄養バランスが高まる ③コミュニケーションを図ることで食事の楽しさが増す ④食事のマナーが身につく などの効果が期待されているため、今後さらに、快適で健康的な食事を学ぶ環境の整備が求められます。

食事づくりに参加する

指標	目標値	策定時	直近値	達成状況	評価
食事づくり（買い物・調理・配膳・片付け等手伝いも含む）に参加している人の割合	95%	91.8%	93.0%	97.9%	B

《成果と課題》

食事づくりへの参加頻度は、「いつもしている」という日常的な参加が 63.0%、「時々している」30.0%を含めると、総数で 93.0%でした。前回（91.8%）に比べて改善はされたものの、ほぼ横ばいの結果となりました。

また、成人総数（総数から小中学生、高齢者を除く）においては、小中学生保護者の食事づくりへの参加頻度が 84.4%と、高い傾向が見られました。

一方で、小中学生の「食事づくりをまったくしていない」人の割合は 12.1%で、前回（12%）と変わらず、改善は見られませんでした。

今後も食事づくりに参加する人の割合が増加する環境の整備が求められます。

地域活動に参加する

指標	目標値	策定時	直近値	達成状況	評価
地域の活動に参加している割合	70.0%	62.2%	73.1%	104.4%	A
農林水産に関わる体験をしたことがある割合(教育ファームを含む)	90.0%	84.3%	94.9%	105.4%	A

《成果と課題》

地域活動に参加している人の割合は 73.1%を占め、目標値 70.0%を上回りました。前回(62.2%)と比較してみても、地域活動への参加率が高まっていることが分かります。

地域活動への参加は、人と人との絆、人と地域とのつながりを深めるほか、自らが暮らす地域の特徴や伝統的な文化の継承にもつながると考えられているため、引き続き、様々な場の提供を行い、地域活動の機会を増やすことで、より新たな展開が期待できます。

また、農林水産にかかわる体験をしたことがある人(高齢者を除く)は 94.9%を占め、目標を達成しました。体験をしたことがある人の7割以上が「さらに体験してみたい」と回答していることから、これまで農林水産にかかわる体験をしたことがない人だけでなく、一度体験したことがある人にもより幅広く持続的な体験の場が提供できるよう、希望の多い「野菜や果物の栽培・収穫」、「魚釣りや地引網」、「田植え・稲刈り」等の事業展開が期待されます。